

[さくら市]

水と緑に恵まれて、江戸の町人文化の香りが今も残る街

県内の個性豊かな市・町をご紹介しているこのページ。今回は、江戸文化の香りたつ街並みと「日本三大美肌の湯」で有名な、さくら市です。



ゆうゆうパークの桜つつみ

県中部に位置するさくら市は今、城下町・宿場町の歴史のうえに全国的に有名な温泉の知名度を活かして、地域の活性化に新たな展開を見せています。

例えば、中世に築かれた勝山城跡や大蔵ヶ崎城址は、桜の美しい公園として市民に親しまれています。江戸時代に入り、奥州街道の整備によって、氏家宿や喜連川足利氏の城下町でもある喜連川宿が生まれ、賑わいをみせます。喜連川足利氏は、実質5千石ながらも、足利尊氏の末裔ということから10万石の大大名と同じ高位の待遇を受けており、小さな大大名とも呼ばれています。

さらに近代に入ると、今観光や教育で利用されている笹屋別邸や瀧澤家住宅など、西洋文化を日本文化に取り入れた時代の特徴的な建物が建てられるようになりました。そして昭和に入ると、三大美肌の湯でもある喜連川温泉の湧出にも成功しています。

こうした地域の変遷はさくら市ミュージアム—荒井寛方記念館—で学ぶことができます。歴史ロマンの漂うさくら市にて、名所を巡った後は温泉につかりながら、秋の夜長を楽しんでみてはいかがでしょうか。



さくらグルメ

氏家うどん



氏家うどん

自然に恵まれたさくら市は、美食の郷でもあります。最近の注目は、「氏家うどん」。地場産小麦の持つ独特の色合いと香りと、食べるほどに感じる素朴さが特徴の田舎風うどんです。今年1月、商工会出願では全国で初めて、特許庁より地域団体商標に登録されました。市内11店の認証店で味わえます。また初夏から盛夏に人気なのが、鮎。塩焼きのほか、甘露煮、昆布巻きなど、さまざまな食べ方で楽しむことができます。

鮎の塩焼き



News

日本三大美肌の湯 (喜連川温泉)



温泉手形

さくら市の魅力は枚挙に暇がありませんが、全国に知名度が最も高いのは、やはり温泉でしょう。名湯と呼ばれる温泉は数あるなかで、「日本三大美肌の湯」として高い人気を誇るのが市内の喜連川温泉です。昭和56(1981)年に

湧出した(喜連川温泉)、まだ歴史の若い温泉ですが、硫黄・塩分・鉄分を多く含む弱アルカリ泉の泉質は、国内屈指の優れたもの。肌によい温泉として、「日本三大美肌の湯」と称しています(他の2つは佐賀県・嬉野温泉と島根県・斐乃上温泉)。

市内には、日帰り入浴施設として「第一温泉浴場もとゆ」「第二温泉浴場露天風呂」などがあり、道の駅きつれがわでは入湯施設や足湯が整備されています。

道の駅などでは、3施設にお得に入浴できる「温泉手形」のほか、名物の温泉ぱん(温泉湧出を記念して名付けられたパンで、レーズン・クルミ・オレンジ・レモンなど種類も豊富。ふっくら・しっとりした味わいは病み付きになります)を販売しており、温泉の知名度向上と地域振興に大きく寄与しています。



▲早乙女温泉



▼温泉ぱん ▲もとゆ温泉



●笹屋別邸

大正～昭和初期に建てられた2階建ての館。今年5月に改修整備が終了し、地域の観光拠点として活用していくことになりました。



●瀧澤家住宅

明治時代の実業家・貴族院議員瀧澤喜平治の家。鐵竹堂、長屋門、蔵座敷の3棟は明治25年に陸軍大演習の際、明治天皇の行啓を記念して建てられたといわれており、菊花の装飾のある門や豪華な内装など、特徴的な造りが魅力です(県指定の文化財)。



●カフェレストラン蔵ヶ崎

大正時代に使われた警察署の建屋で、地元産の食材を活かしたメニューを提供します。大正ロマンの香り漂う矢羽根の袴姿で接客するスタッフも人気です。



●道の駅きつれがわ

関東初の温泉施設を併設した道の駅として、「好きな道の駅」の調査で常に上位にランクされる施設。内湯、露天風呂や足湯、水着着用のクアハウスなどがあり、氏家うどんや鮎塩焼きなどの地元グルメも人気があります。



●今宮神社

1060年創建の古社で、1300年に現在地に遷宮されて以降、旧・氏家町一帯の総鎮守として尊崇されています。境内の大イチョウは樹齢700年の古木で、栃木県銘木百選に指定されています。



●龍光寺

江戸時代、喜連川足利氏歴代藩主の菩提寺で、廟所には足利尊氏の木像(市指定文化財)が安置されます。

●さくら市ミュージアム—荒井寛方記念館—

さくら市出身の日本画家・荒井寛方の作品のほか、県内の現代美術作品や、地域の変遷を示した展示、鑑賞家・吉川金次のコレクションなどが話題です。



●ゆうゆうパーク

水とふれあえる公園をテーマに、鬼怒川の河川敷に造られた公園。広大な芝生広場や園内を流れる小川があり、400本以上のソメイヨシノが咲き乱れる桜つつみは市内屈指の桜の名所です。



profile

●さくら市

平成17年、旧氏家町・喜連川町の合併・市制施行により誕生したさくら市。親しみやすいその名称は、桜の名所が多くあることに加え、花のように美しい街になってほしいとの願いを込めて命名されました。市内は、緑豊かな丘陵地帯や鮎釣りのメッカとして親しまれる4つの清流(鬼怒川・荒川・内川・江川)など、自然環境も充実し、四季を通じて多くの人々が訪れます。また近年は東京から約120キロというロケーションが注目され、工業団地や住宅地の開発も進んでいます。

- ▶面積：125.63平方km
- ▶人口：44,914人(15,832世帯)